

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算                      支出科目 款：総務費    項：企画開発費    目：地域振興対策費

事業名【新】ぎふの自然保育等体験支援補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

総合企画部    地域振興課    移住定住係    電話番号：058-272-1111 (内2541)

E-mail：c11143@pref.gifu.lg.jp

1 事業費                                      9,000 千円    (前年度予算額：                                      0 千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	9,000	0	0	0	0	0	0	0	9,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)  
少子高齢化が進むなか、地域の担い手不足が深刻な課題となっている。「定住人口」のほか、地域と継続的なつながりを持つ「関係人口」が、新しい地域の担い手として期待されており、「関係人口」の創出・拡大が求められている。

(2) 事業内容  
都市部に住む親子が、県内の保育園等に子どもを一定期間通わせながら、ぎふの暮らしを体験する費用の一部を支援し、家族ぐるみの関係人口創出・拡大につなげる。

- 【対象者】 県内の保育園等に子どもを通わせながら、ぎふの暮らしを体験する県外世帯  
(1 週間以上)
- 【補助率】 1 / 2
- 【上限額】 1 0 0 千円 / 世帯、1 0 千円 / 泊まで
- 【対象経費】 体験世帯が負担する宿泊費

### （３）県負担・補助率の考え方

県内市町村が取り組む関係人口創出・拡大事業（自然保育等体験事業）の利用者増に加え、他市町村に取組みを普及する目的もあり、県が積極的に支援する必要がある。

### （４）類似事業の有無

無

## ３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	8,900	125世帯を想定 $60千 \times 90 + 100千 \times 35$
消耗品	60	事務用品代
役務費	40	郵便代
合計	9,000	

### 決定額の考え方

## ４ 参 考 事 項

### （１）各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略(2023-2027)において、「２「健やかで安らかな地域づくり」の「（３）誰もが活躍できる社会」「②新次元の地方分散に向けた環境整備」に係る具体的な施策として本事業を位置づけ。

### （２）後年度の財政負担

目標数値の達成に向け、３か年度予算要求を行う予定

### （３）事業主体及びその妥当性

市町村を関係人口施策の主軸としつつ、県は広域行政を担う「県ならではの」施策に特化し、市町村の施策支援を実施

# 県単独補助金事業評価調書

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

## (事業内容)

補助事業名	ぎふの自然保育等体験支援事業
補助事業者（団体）	
補助事業の概要	<p>（目的） 関係人口の創出・拡大</p> <p>（内容） 都市部に住む親子が、県内の保育園等に子どもを一定期間通わせながら、ぎふの暮らしを体験する費用の一部を支援。</p>
補助率・補助単価等	<p>定率</p> <p>（内容） 体験世帯が負担する宿泊費の 1 / 2 （上限 10 万円、1 万円／泊まで）</p> <p>（理由） ぎふの自然保育等体験する世帯の費用の一部を支援</p>
補助効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県の関係人口創出・拡大（自然保育等体験世帯数）</li> <li>・他市町村への関係人口施策普及</li> <li>・地域経済の活性化促進</li> </ul>
終期の設定	<p>終期：令和 10 年度</p> <p>（理由） 県内市町村が取り組む関係人口創出・拡大事業（自然保育等体験事業）の利用者増及び他市町村に取組みを普及する事業目的を 3 か年度での達成を目指す。</p>

## (事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか  
関係人口創出・拡大事業（自然保育等体験事業）の利用者増及び他市町村への普及

## (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R7)	R7年度 実績	R8年度 目標	R9年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
体験世帯数	83 (見込)		125	150	180	
取組市町村数	3		4	4	5	

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	
令和5年度	
令和6年度	

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)

2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)

1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%)

0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)

(評価)

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか